



特集

「お魚殖^かやす植樹運動」に励む「浜のおかあさん」
未来の海と森を見据えて120万本 北海道漁協女性部連絡協議会

シリーズ「北海道の天然記念物」④ タンチョウ〔釧路市・鶴居村〕

ほっかいどうの本 『サチコさんのドレス』 北海道新聞社
『とみおかクリーニングの本』 クナウマガジン
『北の人びと Place People』 共同文化社

「お魚殖やす植樹運動」に励む 「浜のおかあさん」

未来の海と森を見据えて120万本

北海道漁協女性部連絡協議会

(文・片山健一 取材日2021年11月18日)

北海道漁業協同組合連合会（北海道ぎょれん）は、「百年かけて百年前の自然の浜を」を合い言葉に、漁業関係者による森づくり活動を支援しています。2020年度末までに累計120万本を超える植樹を行い、自然豊かな森林と清らかな河川環境を維持することで、豊かな魚介類を育む北海道の海を守っています。この取り組みは34年前、「浜のおかあさん」が始め、今も続いている取り組みです。植樹活動の中心に立つ北海道漁業協同組合女性部連絡協議会（JF北海道女性連）の高松美津枝会長に、活動にかける思いなどを伺いました。

北海道の海と森の好循環を守る

「最初に聞いた時は正直、『え、なんで？』って思いました。1988年、北海道漁協婦人部連絡協議会（2002年に現在の名称に変更）の創立30周年記念事業として、全道各地の漁協婦人部が一斉に植樹を行うと決まった当時のことを高松会長は、「浜のかあちゃん」が山に登って、なぜ木を植えるのかと思いました」と述懐します。

太平洋、日本海、オホーツク海という三つの海に囲まれた北海道は、サケ、ホタテ、コンブなど、さまざま

な海産物に恵まれています。これら豊富な水産物は、北海道の豊かな森が育んでいます。

全道的に漁が行われるサケのふるさと川です。サケは秋に、川を遡上して産卵し生涯を終えます。ふ化した稚魚は翌春に川を下り海へと立ちます。海で大きく成長したサケやマスの回帰・遡上が増えると、クマ、キツネ、ワシ、カラスなどによるサケの捕食量が増加し、さらに小動物や昆虫類も食べて、微生物が分解します。これが森の栄養になります。

地撒きや養殖で生産されているホタテが、餌とする植物プランクトンに不可欠なケイ素や鉄は陸から海へと運ばれています。北海道が一大産地のコンブも、森林から川を通じて供給されるリンや窒素などの栄養分で大きく生長します。

森から海へ流れた落ち葉がたまる場所には、落ち葉を食べるヨコエビを狙ってカレイが集まってきます。また、海に流れ出た落ち葉にはウニ





大漁旗を掲げ大勢が参加する植樹活動（提供：JF 北海道女性連）



JF 北海道女性連会長の高松美津枝さん

も群がります。

古くから、海面に樹木の影が映る場所には、魚が集まる効果があることは知られていて、江戸時代の漁村では、海岸近くに存在する森林を「魚付き林」と呼び、伐採を禁じてきました。現行の森林法でも、魚介類の生息、生育に好影響をもたらす海岸線付近の森林を「魚つき保安林」として指定し、保護しています。

サケの遡上などによる「海と森の栄養連鎖」をはじめ、雨水を蓄えて澄んだ水を川に流す水源かん養機能、急激な出水による土砂崩れなどで川や周辺海域の汚濁を防ぐ土砂流出防備機能などの諸機能は、「魚付き林」に限らず、あらゆる森林は、魚類の生息しやすい環境を守る役割を果たしていることが、さまざまな研究によって解き明かされています。

子や孫の代に豊かな自然を引き継ぎたい

1958年6月に発足した北海道漁協婦人部連絡協議会（道漁婦連）の事業として一斉植樹を立案したのは、北海道指導漁業協同組合連合会（現在は北海道ぎよれんに統合）に勤務し、道漁婦連の事務局を務めていた柳沼武彦さんでした。

道漁婦連は、1968年の創立10

周年記念事業で、札幌市内の大通公園西7丁目に「漁民之像」を建立しました。1978年の20周年では、部員の拠出金で約1億円の「健康活動基金」を創設して健康診断への補助などを行いました。

1988年の30周年にあたって柳沼さんは、以前から温めていた「木を植えて魚を殖やす」ことを目的にした全道一斉植樹を「お魚殖やす植樹運動」と名付けて企画、提案します。

その年、「百年かけて百年前の自然の浜を」というキャッチフレーズの下、136の漁協婦人部のうち95の婦人部が植樹に参加し、7万3500本の苗木を植えました。

植樹を始める背景には、1977年に200海里の排他的経済水域が設定されたことで遠洋漁業が規制され、養殖漁業や沿岸漁業へとシフトする中、開発行為による森林伐採や工業化に伴う環境汚染が、漁獲量に深刻な影響を与える要因になっていた



大通公園に50年以上前に建立した「漁民之像」

ました。

厳しい漁業環境を克服するため、資源管理型の新しい漁業を模索する中で、漁業関係者も海に注ぐ川や、その源である森林に目を向けるようになっていったのです。

柳沼さんは「植樹運動の最も重要な狙いは、この実践を通して自らの生産の場を、自然の摂理や自然環境、地球環境さえも視野に入れて理解することにある」とし、それまで当たり前に行われてきた「自然環境を無視した漁獲競争」を見直す意図もあったと、著書『森はすべて魚つき林』（北斗出版、1999年発行）に記しています。

「漁業は全国的に後継者不足で、『板子一枚下は地獄』と言われる危険な仕事ですが、親としては正直、経営状態が良ければ後を継がせたい」と思い、苦労していれば別な職業にと思っています。植樹を続けているの



子どもたちも植樹に参加（提供：北海道ぎよれん）

も、自分たちの子や孫に豊かな自然という財産を残したい気持ちが大きいです」と、高松会長は植樹に寄せる思いを明かします。

全道各地の漁協婦人部で 着実に広がる植樹運動

1988年から始まった「お魚殖やす植樹運動」は、その後も各地の漁協婦人部単位で継続的に行われました。毎年欠かさず植樹する婦人部もあれば、一年おきに行う所もあります。下草刈りや枝打ちなど樹木の保育に力を入れる団体もありました。

1992年5月、北海道漁業協同組合長会議では、漁場環境保全のため植樹活動などの取り組みを強化することを決議し、漁協系統団体全体で取り組むことになりました。行政も動き出し、同年6月には北海道林務部が「魚を育む森づくり事業」に着手します。

1993年に林野庁が発行した『林業白書』と、1994年に水産庁発行の『水産白書』が、相次いで道漁婦連の植樹活動を取り上げたほか、1994年11月の第14回全国豊かな海づくり大会では、道漁婦連に農林水産大臣賞が贈られるなど、植樹活動への注目が全国的に高まりました。



背丈ほどに生長した樹木を見守る
(提供：北海道ぎょれん)

最初の植樹から10年後、植樹運動は全国20道県に広がり、1998年2月に「全国漁民の森サミット」が東京で開かれました。同年9月には植樹活動10周年を記念し、当別町青山にある「道民の森」内の8・16畝を「お魚殖やす植樹運動記念の森」として植樹を始めました。

2004年11月には、北海道ぎょれんの会長と北海道森林管理局長が「清流を守り、豊かな海を育むための森林づくり活動の推進に関する基本協定」を締結するなど、さまざまな行政機関や企業、関連団体の支援・協力を得ながら、2015年度末には、全道の植樹累計本数が100万本を突破したのです。

近年は、毎年60〜70カ所で、3万本前後のペースで植樹を行ってきました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2020年度は14カ所、約5000本にとどまりましたが、植樹本数の累計は120万3626本に達しています。地域に

よっては植樹場所を探すことも大変になってきているそうで、高松会長自身、「それこそネパールの秘境のような山奥に植樹することになり、崖沿いの険しい山道を恐る恐る通った」こともあったそうです。

コロナ禍の2021年度も、規模を縮小するなど工夫しながら、道内各地でミズナラやヤチダモ、ダケカンバなどの広葉樹を中心とした植樹は着実に進んでいます。高松会長は「各漁協の青年部が事前に植樹用の穴を掘ってくれるなど、多くの方々がお私たちの活動を支えてくれていておかげです」と感謝します。

貯金から魚食の普及まで 個人的なものから社会貢献へ

全国各地の漁協に組織されている女性部は、その歴史をひもとくと、発祥は北海道にあります。

1951年、日本海に面した泊村の漁協では、ニシンの不漁続きで、食糧の配給も受け取れないほど困窮していました。当時の組合長が北海道信用漁業協同組合連合会（北海道信漁連）に融資の相談をしたところ、「家計をやり繰りする婦人に1日1円でもよいから無駄を省いて貯金をするように言ってください」と説かれたそうです。組合長が村に

持ち帰り、話し合いを重ねた結果、女性たちが自ら漁協婦人部貯蓄実行組合を立ち上げ、組織的な運動を始めました。

「何とかして現状を打破したい」という女性たちの奮起をきっかけに、①漁家生活の合理化②貯蓄の励行③漁村女性の地位向上——などを目指して、全国各地の漁協で婦人部が創設されていきます。

「漁業は自然が相手なので、時化が多ければ獲れる量が少ないし、豊漁でもだぶつくと値下がりするなど、収入は不安定です。良い時にできるだけ貯めておくという貯金運動は、今も女性部が続いています」（高松会長）。

やがて漁協女性部の活動は、貯金運動を中心にした家計の改善という個人的なものから、植樹などの環境保全や魚食普及など社会に向けたも



サケを水揚げする様子
(提供：北海道ぎょれん)



子どもたちにホタテのむき方を教える
(提供: JF 北海道女性連)



2019年に開かれた浜のおかあさんマルシェ
(提供: JF 北海道女性連)

のへと広がりを見せます。

JF北海道女性連も、魚食をもっと普及させようと、北海道ぎょれんと共同で「浜のおかあさん料理教室」を、年3回程度のペースで札幌を中心に通算100回以上開いています。

各地区の女性部の代表が持ち回りで講師を務め、産地直送の旬の魚を使い、児童や生徒、一般消費者ら幅広い対象に合わせて、魚のさばき方やおいしい調理法を伝えていきます。

「毎回、違う魚料理が出てくるので、次も参加したいというリピーターも多く、抽選で参加者を決める時もあるくらい好評なんですよ」と高松会長は声を弾ませます。

サケを丸ごと一尾さばいて、生筋子からイクラの醤油漬けを作り、あら汁を添えたサケ・イクラ丼、貝殻からむいたホタテを使ったパエリア

など、各地区の部員が知恵を絞った料理を紹介するほか、利尻、函館、日高など産地によるコンブの違いなども教えています。

また、2019年6月1、2日には、札幌市中央区のさっぽろ創世スクエアで第1回「浜のおかあさんマルシェ」を開催し、各地から自慢の水産加工品を展示・販売し、連日500人が訪れ、好評を博しました。

このほかにも、各漁協女性部が独自に、海浜や漁港トイレなどの清掃、地元で料理教室を開くといった社会貢献活動をしています。

コロナの中でも、料理教室やマルシェなどは「ぜひやってほしい」という要望も多く寄せられましたが、地元でウイルスを持ち込む恐れがあるため、2020年以降、これらの活動は休止し、会合も全てリモート



11月19日、2年ぶりに対面で開かれた女性連の役員会 (提供: JF 北海道女性連)

開催で乗り切ってきました。「まずは料理教室とマルシェを復活させていすね」と、高松会長は今年にかける思いを語ります。

相互扶助の精神を忘れず みんなで涙を支えたい

北海道には111の漁協女性部に所属する、20代から80代までの6133人(2021年4月1日時点)の部員がいます。1969年には約3万人が所属していましたが、近年は300人前後のペースで部員が減り続け、若手部員の入会が少なく高齢化も進んでいます。

各漁協女性部の活性化を目指し、JF北海道女性連は、北海道信漁連の助成を受けて、「女性部加入促進事業」を2019年度からスタートさせました。札幌市在住の女優・千堂あきほさんに「北海道漁協女性部

応援大使」を委嘱し、女性部が行うイベントなどに参加して、テレビなどのメディアを通じて女性部活動の役割や楽しさをPRしています。

このほか、コンビニチェーンのセコマと連携して、電子マネー機能付きポイントカード「ペコマ」を女性部の会員証にしたり、新入部員にはカタログギフトを贈るなど、新たな取り組みの成果もあり、2019年度には約100人の入会がありました。

漁業と縁の無い家庭で生まれ育った高松会長が、浜頓別町の漁家に嫁いでしばらくは、カニかこの積み下ろしや船の掃除など不慣れな「浜の仕事」を手伝いながら、子育てに励む多忙な日々を送っていたそうです。

そんな中、加入した頓別漁協婦人部が、息抜きの場を与えてくれた経緯を「婦人部に入っていると、『集まりがあるから』と言って出掛けることができました。いい人ばかりで、婦人部のみんなと旅行に行けるのが、何より楽しかった」と振り返ります。

コロナ後のJF北海道女性連の活動について、高松会長は「何ができるかを一から考え直す時期に来ていると思っています。『一人はみんなのために、みんなは一人のために』という原点に立ち返りながら、浜を支える活動をしていきたいですね」と話します。

北海道の 天然記念物 ④

（タンチョウは国の特別天然記念物です。）



タンチョウ

〔釧路市・鶴居村〕

（文・片山健一 取材日2021年12月13日）
写真提供・阿寒国際ツルセンター



タンチョウの鳴き合いの様子

釧路湿原に舞う

国内最大級の野鳥 保護と生息域拡大に取り組む

タンチョウは、漢字で「丹頂」と書き、頭頂部が赤い特徴があります。日本にいる野鳥の中では最大級で、身長は140センチ、翼を広げると2メートル40センチにもなります。

生息地は北海道の東部（道東）が中心で、日本で観察できるツルのうち、国内で繁殖するのはタンチョウだけで、国の特別天然記念物に指定されています。

徐々に回復する生息数

タンチョウは、江戸時代までは北海道の各地にいましたが、明治時代になると乱獲や生息地である湿原の開発によって激減し、一時、国内では絶滅したと思われていました。ところが、大正末期の1924年、釧路湿原で十数羽が再発見されました。

1935年8月に釧路湿原のうち2700ヘクタールが「釧路丹頂鶴繁殖地」として国の天然記念物に指定され、1952年3月には「釧路のタンチョウ及びその繁殖地」に名称変更された上、特別天然記念物になりました。さ



給餌するトラクターとタンチョウ



タンチョウの給餌場に現れたエゾシカ

らに、1967年7月の変更では、面積5012ヘクタールの「釧路湿原」が天然記念物に指定され、「タンチョウ」は地域を定めない特別天然記念物となり、国や自治体による保護施策が講じられるようになりました。道内では、2020年度越冬分布調査で、調査開始以来最多となる1516羽を数えるまで回復しています。

人工給餌で生き延びるタンチョウの現実

森林伐採に伴う湧き水の減少で川が凍るようになると、タンチョウは餌を採ることができません。冬は人からの給餌に依存して生き延びているのが現状です。

人工給餌は1950年、阿寒町（現・釧路市）の上阿寒地区に住んでいた故・山崎定次郎さんが、自宅の畑でタンチョウがトウモロコシの茎や葉を束ねた「ニオ」をついばむのを見て、貴重な食糧だったトウモロコシを畑一面に撒いたことが始まりです。現在は、阿寒（釧路市阿寒町）、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ（鶴居村）、鶴見台（同）が「三大給餌場」と呼ばれ、11月から3月にかけて環境省の委託事業として餌を与えています。

上阿寒地区に1996年開設された「阿寒国際ツルセンター グルス」は、タンチョウの生態や行動などを調査・

研究し、情報発信するとともに、タンチョウの保護にも取り組んでいます。ツルの生活や習性などを紹介する本館のほか、年間を通じて観察できる野外飼育場、多様な動植物が生息する水辺空間を再生したビオトープなどがあります。タンチョウ観察センターの前に広がる阿寒給餌場には、多い時で150羽以上が飛来し、夕暮れとともにねぐらへと帰って行きます。

冬の給餌を行わな

いと生息数は10分の1に減るといわれています。その一方、越冬期は釧路管内の給餌場に9割以上の個体が集中するため、感染症のまん延も懸念され、環境省では、タンチョウの生息地域を分散させようと、2015年から段階的に給餌量を削減しています。

阿寒国際ツルセンターの河瀬幸館長は、今後の保護活動の在り方について「私たち人間と野生生物とがうまく共存するためには、まず彼らが暮らす失われた自然を再生し、整えることが大切です」と話しています。

釧路湿原

釧路市、標津町、鶴居村、釧路町の4市町村にまたがる釧路湿原は、明治以降、開拓が困難なため、役に立たない土地と考えられてきました。しかし、豊かな自然環境に対する価値が認められ、1980年に日本で最初のラムサール条約登録湿地となり、7年後には国立公園に指定されました。



集団で空を舞うタンチョウ

ほっかいどうの本

このコーナーは北海道の出版社から発行された本を社員が読み紹介しております。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です。

サチコさんのドレス

978-4-86721-042-0

桜木 紫乃 文／そら 絵
B5変型判 32頁 1650円
北海道新聞社 発行
011・210・5744



本書は、直木賞作家の桜木紫乃さんが文章を手掛け、札幌在住の絵本作家そらがイラストでやさしく表現している、ふたりが贈るあたたかくて、ちょっぴり泣ける絵本です。札幌で活躍するスタイリストの石切山祥子さんがモデルです。

絵本ではスタイリストのサチコさんが、車椅子の若い女性の「ウエディングドレスは諦めている」という声を聞き、試行錯誤しながらドレス制作を開始し、車椅子のなっちゃんさんの夢のウエディングドレスが完成するところまでが描かれています。登場するウエディングドレスは、誰でも簡単に着用できるユニバーサルドレスです。「障がいがあっても人生の大切なひとときを、心から楽しんでほしい」と絵本が伝えてくれます。

人に寄り添いながら悩みを形とし、このキラキラ輝く素敵な洋服を制作する取り組みが、もっと多くの人々に知ってもらえたら、笑顔や幸せが広がっていくと感じます。「車椅子ドレス カンパネルラ」で検索すると、ホームページで実際のドレスを見ることが出来ます。

(Mac部 椿原由夏)

とみおかクリーニングの本

978-4-902602-94-8

(株)ハッピーツリー 編
クナウマガジン 発行
A5判 96頁 1980円
0155・38・4188



人口よりも牛の数が多い酪農の町、北海道・中標津町にある「世界一かわいいクリーニング店」が本になりました。

とみおかクリーニングは1950年に富岡クリーニング店として中標津町で開業し、70年以上にわたり地域に根差したクリーニング店を展開しています。ハッピーな暮らし、クリーンな地球を実現することが「世界一かわいいクリーニング店」構想の始まりとなりました。

培ってきたクリーニングのノウハウを、少しでも暮らしで生かしてもらいたいという思いから、エコを考えたオリジナル洗剤や、おうち洗濯の時間を楽しく過ごすための雑貨も販売しています。

本書では本社のある中標津町の魅力や、知っているところとちょっとした便利な洗濯の豆知識なども紹介されています。洗剤、水、洗い方、一つひとつにこだわり抜いた丁寧な仕事と、それに対する自信が感じられ、かわいらしく、おしゃれで、衣類と人と環境への優しさがいっぱい、とみおかクリーニングの魅力が満載の一冊です。

(出力検版部 塩谷恵子)

北の人びと Place People

1991 Last USSR, 1975-2021 青森・北海道

佐々木 郁夫 著
共同文化社 発行
A4変型判 208頁 4950円
011・251・8078



1991年に起きたソヴィエト連邦8月クーデター直後のモスクワや、学生時代から訪れてみたかったサハリンをはじめ、ハバロフスク、少数民族ナナイ族の村などで、著者の佐々木さんは約100本のフィルムに及び撮影行をしました。

その時に撮影した名前も知らぬ、その時代、その土地で生活していた人たちが、1975年から2021年の青森・北海道まで「北の人びと」の存在が本書に収められています。

ソ連崩壊から30年が経ち、今までの写真活動を振り返り、これからの写真のテーマを考える機会として出版されました。

ダブルトーンで印刷した重厚感溢れる陰影の写真からは、そこにいた人やものの姿がリアルに伝わってきます。

漁師の顔に刻まれた光を吸い込んだ皺の一本一本をはじめ、どの写真からもドラマを感じます。写真集を捲るたびに、時空を超え、民族や国境を越え、出会うはずの無かった人びとを知り、写真への旅に惹き込まれます。

(北海道営業部 馬場康広)

新刊情報

書名の下に数字は日本図書コード（ISBN）及び雑誌コード。特記以外は税込価格。
お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

決定版 北海道の温泉まるごとガイド

2022-23 978-4-8621-041-3

小野寺 淳子 著
A5判 364頁 2200円

北海道の業界地図2022-23

北海道新聞社 編
B5判 184頁 1650円

総天然色 ヒギンズさんの北海道鉄道旅

1957-70 978-4-8621-044-4

J・ウォーリー・ヒギンズ 著
B5判 160頁 2640円

サチコさんのドレス

桜木 紫乃 文／そら 絵
B5変型判 32頁 1650円

ファイターズ2021 オフィシャルグラフィックス

北海道新聞社 編
A4判 144頁 1320円

モリー58号

湿原の神タンチョウ その魅力と人とのかわり
北海道新聞野生生物基金 編
A4判 72頁 1100円

道新プラス 道新受験情報

2022高校入試 志望校決定特集
北海道新聞社 編
B5判 234頁 880円

北海道新聞社

000 札幌市中央区大通西3-6
011-210-5744

北海道大学大学院文学研究院研究叢書32 からまりあい重なりあつ歴史

植民地朝鮮の文化の力学
権錫永 著
四六判 376頁 3740円

アイヌからみた北海道150年

石原 真衣 編著
四六判 136頁 1760円

格差の社会学入門 第2版

学歴と階層から考える 978-4-8329-6881-3

平沢 和司 著
A5判 210頁 2970円

知られざる境界のしま・奄美

平井 一臣 編著
B5判 84頁 990円

ブックレット・ボーターズ8

スラフ・ユーシア叢書15
北東アジアの地政治
米中日のバウゲームを超えて
岩下 明裕 編著
A5判 310頁 3850円

福澤諭吉と丸山眞男
近現代日本の思想的原点
平石 直昭 著
A5判 476頁 8800円

檣文叢書4 人権論の光と影

環大西洋革命期リヴァールの奴隷解放論争
田村 理 著
A5判 238頁 6380円

北海道大学出版会

000 札幌市北区北9条西8丁目
011-747-2308

教えて、北海道のがん

どさんこドクターに聞く
高橋 将人 著
四六判 184頁 1650円

北海道の縄文文化 こころと暮らし

「北海道の縄文文化 こころと暮らし」
刊行会 編著
B5変型判 300頁 3960円

亜細亜社

000 札幌市中央区南2条西5丁目
011-2221-5396

札幌美術展 佐藤 武 図録

札幌芸術の森美術館 編
A4変型判 135頁 2750円

遠い誰か、このあたりか

With Others at a Long Distance
札幌文化芸術交流センター SCARTS 著
A5判 64頁 1650円

もちちゃんの いちばん おいしい ばん

あべ みち子 作・絵
A4変型判 32頁 1300円

いちまいの ふろしき

よこやま よしえ 作
A5判 32頁 1100円

中西出版

007 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34
011-785-0737

北海道の最新農業気象

気候変動に対する営農技術最新録
広田 知良・中辻 敏朗・
小南 靖弘 監修
B5変型判 228頁 3981円

北海道の農業 令和3年版

A4判 60頁 1320円

北海道農協年鑑 令和4年版

B5判 584頁 11524円

北海道協同組合通信社

000 札幌市中央区北5条西14丁目
011-231-5261

松浦武四郎が免めたサイン帳

洪田扇帖 shibuchiwayo
三浦 泰之・山本 命 編
B5判 165頁 4950円

北海道出版企画センター

0018 札幌市北区北18条西6丁目2-47
011-737-1755

がんの「語り」

大島 寿美子・米田 純子・
宇佐美 暢子・木村 恵美子 著
B5判 92頁 2420円

寿郎社

0007 札幌市北区北7条西2丁目
011-708-8565

つむじ風に巻き上げられて

安酸 敏真 著
四六判 220頁 1980円

わが人生 わが経営【第2集】

一般社団法人 北海道中小企業家同
友会 編
四六判 464頁 2200円

サロマ湖森の詩

上伊澤 洋 著
A4変型判 80頁 1980円

爪句@あの日あの人

北海道豆本シリーズ49
青木 曲直 著
100ミリ×74ミリ 248頁 5000円

北の人びと Place People

1991 Last USSR 1976-2021 青森・北海道
佐々木 郁夫 著
A4変型判 208頁 4950円

共同文化社

0003 札幌市中央区北3条東5丁目
011-251-8078

紙の表とこ

冬の円山公園
佐藤 一 木版画 47センチ×30センチ

北海道神宮の鎮守の森から、円山（標高225m）に至る一帯は天然記念物に指定された原始林である。70年に及ぶ敷地には、動物園、総合グラウンド、野球場、テニスコートなどを擁している。

また、桜の名所でもあり、春にはジンギスカン鍋のニオイと賑やかな笑い声にあふれる。普段は、静かに散歩する老若男女や幼児を連れた若いお母さんなどが思いおもいに過ごしている。

雪に閉ざされた2月の遊水路である。

全道美術協会（全道展）会友 札幌市在住



※季刊アイワードのバックナンバーを
弊社ホームページよりご覧いただけます。
URL <https://iword.co.jp>